

## 北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議（第25回）開催結果概要

### 1 日 時

平成24年2月10日（金） 14:00～16:30

### 2 場 所

PCB処理情報センター（室蘭市御崎町1丁目9番地8）

### 3 出席者

監視円卓会議委員、登別市、環境省、日本環境安全事業株式会社（JESCO）  
事務局（北海道、室蘭市）

傍聴者：15名 報道：3社（NHK、室蘭民報社、北海道新聞）

### 4 内 容

- (1) 第24回監視円卓会議議事録について
- (2) 北海道事業の進捗状況等について
- (3) 増設事業について
- (4) 環境モニタリング測定結果等について
- (5) その他

### 5 議事概要

- (1) 第24回監視円卓会議議事録について

監視円卓会議として承認。

- (2) 北海道事業の進捗状況等について

日本環境安全事業株式会社から、資料2-1～資料2-6に基づき説明。

- ・北海道事業所における処理状況は、平成24年1月末現在、JESCO登録数ベースでトランス類で42.0%、コンデンサ類で36.1%が処理済み。
- ・トラブル事象の報告では、12月発生分1件と1月発生分1件の概要説明に加えて、前回報告済みである10月発生分1件のその後の経過も説明。
- ・処理施設から排出された廃活性炭は、これまで当該施設内で保管してきたが、今後、PCBが基準値以下のものは社外処理する方針を説明。

主な質疑等は以下のとおり。

(委 員)

浄化槽のトラブル事象における再発防止対策で、JISによる管理と管理マニュアルによる調整との関係を説明していただきたい。

(JESCO)

全窒素の測定はJISで定められた試験方法で測定を行い、その結果に測定値の上昇傾向など何かあった時には定められたマニュアルで浄化槽の調整をする。

(委 員)

払い出した廃活性炭は、どのように処理されるのか。

(JESCO)

廃アルカリの処分を既に委託している、産業廃棄物処分業者に廃棄物として焼却処理を委託する。

(委 員)

1月に発生したトラブル事象では、発生原因がはっきりしていない様であるが、同型の予備品と交換することは再発防止対策にならないのではないのか。

(JESCO)

検査機関による検査により、腐食によるピンホールが原因と判明しているが、フレキシブルホースを使わざるを得ない箇所もあることから、定期的な交換により対応し

たいと考えている。

(3) 増設事業について

日本環境安全事業株式会社から、資料3に基づき説明。

- ・安全解析の進捗状況とともに、リスク評価に基づく改善例について説明。
- ・固形物の排出量や払出しの方法などについて説明。

主な質疑等は以下のとおり。

(委員長)

フレキシブルホースのピンホールが原因となったトラブル事象やブレーカーが落ちたヒヤリハット事例の発生など、根幹のシステム以外でのトラブルが発生しており、増設施設でも同様の不安があることから、本体部分のリスク評価に加えて、周辺部分のリスク評価についてもしっかりとやっていただきたい。

(委員)

固形物となった重金属をキレート処理で不溶化することができるのか。

(JESCO)

一般の焼却施設からのばいじんの処理と同様、固形物に対して10～20%程度のキレート剤を混ぜ合わせるにより固定化するものである。

(委員)

高温で気化された重金属は、プラズマ熔融分解炉から排気処理工程へ完全に移動するのか。途中で外部に漏れることはないのか。

(JESCO)

構造上外部へ漏れないものとして施工することと、炉から出口までは常に負圧管理をするので外部へ漏れることはないと考えている。

(委員長)

北九州事業所の経験から重金属はどの様なものがあるのか。重金属を測定したことがあるのか。

(JESCO)

北九州事業所はリサイクルでの払出しを行っており、重金属の測定は行っていない。北海道事業所でもリサイクルを優先する考えだが、産業廃棄物として処理を行うことになった場合には測定を行い、その結果は円卓会議に報告したい。

(委員長)

次の円卓会議では、北九州事業所のプラズマ熔融分解炉に関して映像で紹介していただき、排ガス処理、重金属対応など説明していただきたい。

(4) 環境モニタリング測定結果等について

事務局から資料4-1、資料4-4に基づき、日本環境安全事業株式会社から資料4-2、資料4-3に基づき説明。

- ・前回会議以降に判明した環境モニタリング測定結果では、環境基準値・排出管理目標値等を超過した項目はない。
- ・前回会議以降に実施した立入検査件数は4件で、そのうち3件はトラブル事象に伴うもの。
- ・前回会議以降に判明した第1系統排気の自主測定結果は、これまでと同じく低い値で推移。
- ・SN活性炭の分析結果としては、設定平衡吸着量よりも低い濃度であり、クロマト現象は生じないと考え、平成24年度からは通常の測定頻度とする。  
なお、活性炭槽中に偏流が生じている可能性もあるため、来年度も分析を実施予定。

主な質疑等は以下のとおり。

(委員)

廃活性炭中のPCB濃度について、資料4-3の測定結果と比較して、今後払出し

を予定している廃活性炭の測定結果は低すぎると思うがいかがか。

(J E S C O)

処理を行う排気の系統が異なるため、第1系統排気は大型トランスの解体エリアのものであり、作業環境濃度が他に比べて高めになっている。

(委 員)

P C B濃度が高い活性炭はどうするのか。

(J E S C O)

ドラム缶に封入し保管を行い、自社処理や将来的に可能であれば、微量P C Bの焼却処理を行っている業者への搬出も検討したい。

(5) その他

J E S C Oから資料5-1、環境省からは資料5-2に基づき説明。

- |                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・操業開始前に策定された緊急時対応マニュアルについて、今後、現在の実態に合わせた改訂を実施する予定。</li><li>・前回の円卓会議に引き続き、環境省が設置した検討委員会におけるこれまでの検討状況について説明。</li></ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

主な質疑等は以下のとおり。

(委 員)

まだ多くの保管事業場がある中、処理期限が延長されると、中小企業者等の適正な保管を確保することが難しくなるので、中小企業等の優先処理や別の場所への移動・保管が必要となると考える。また、P C Bの生産・輸入量と処分済・保管量との差の部分の行方について、徹底した調査を実施していただきたい。

(委 員)

東日本大震災による風評被害の影響が室蘭にも波及している状況がある中、処理期限の延長により、室蘭港に津波が発生した時の風評被害が心配である。

(委 員)

処理期限の延長など重要な話については、新聞報道が先行することなく、まずは地元に対する情報提供をしていただき、個々の委員の意見が反映できるような体制をとっていただきたい。

(委員長)

検討委員会へは私も出席しており、委員の皆様の意向を踏まえて発言をしたつもりである。また、国が方針を変える際にはきちっと地元に対して説明をしていただかないと、地元の監視会議が機能しなくなるので注意して欲しいとの話も出ている。

次回の円卓会議において、検討委員会での検討状況を紹介していただき、本会議としても少し議論をして、皆さんの意見をいただきたい。

最後に事務局から、次回の監視円卓会議の開催時期（5～6月）と3月29日に開催される北海道P C B廃棄物処理事業報告会の開催について説明。